

平成21年10月21日

第5学年保護者の皆様

広島市立船越小学校
校長 吉岡 克弥
5年生担任

「基礎・基本」定着状況調査結果について

キンモクセイの香りが、秋の訪れを感じさせる季節となりました。皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、保護者の皆様もご存じのように、平成21年6月9日に5年生を対象として広島県で一斉に「基礎・基本」定着状況調査が実施されました。このたび、その結果を分析・考察し、改善点と今後の取り組みについて校内で検討いたしました。調査によって明確になった課題を解決するため、指導内容や指導方法について改善・充実を図りたいと計画しております。

主な内容について、ここに報告いたします。なお、この結果のみに振り回され、これまで本校が培ってきた教育を見失うことのないよう、これからも一層努力してまいりたいと思っております。保護者の皆様には、今後ともご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

1. 「基礎・基本」定着状況調査の趣旨

- ・ 学習指導要領に記されている目標及び内容に基づき、特に「読み・書き・計算」等の基礎的な内容とともに、思考力・判断力・表現力等の定着状況を把握する。
- ・ 生活や学習に関する意識や実態及び教科指導等の実態を把握することを通して、本校の課題を明確にし、指導内容や指導方法の改善・充実を図る。

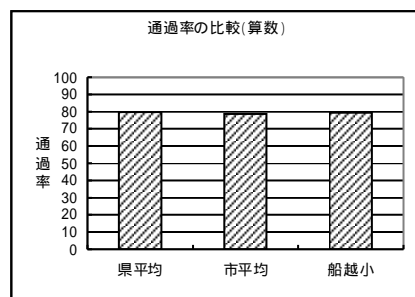
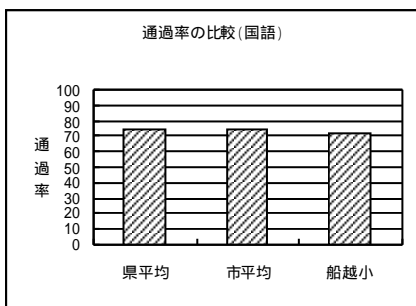
2. 調査内容

- ・ 生活と学習に関する意識と実態調査
- ・ 国語科における前年度までの学習内容定着状況
- ・ 算数科における前年度までの学習内容定着状況

3. 調査結果

(1) 通過率の比較

通過率：(正答者数 + 準正答者数) ÷ 集計の対象者数 × 100



国語	県平均	市平均	船越小
	75.0	74.0	71.4

算数	県平均	市平均	船越小
	79.8	78.4	79.3

(2) 国語科

解答の状況

国語は、「聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」の領域に分けて分析した。

「聞くこと」は、県や市平均と比べて5ポイント近く低かった。

「書くこと」は、市平均と比べて、7ポイント近く低い通過率であった。書く事柄を収集して、大事なことを落とさず、段落に分けて書くことができていない。

「読むこと」は、県や市平均と比べて、2ポイント低い通過率であった。場面の移り変わりや情景を、叙述に即して想像して読むことはおおむねできていた。しかし、文と文の意味のつながりを考えて文章を正しく読むことは、県や市平均と比べて10ポイント近く低かった。

「言語事項」は、県や市平均と比べて1～2ポイント低い通過率であった。文の中の主語と述語の関係・へんやつくりの構成を答える問題についてはできていた。ただ、ローマ字を読んだり書いたりすることや4年生の漢字の読みができていなかった。

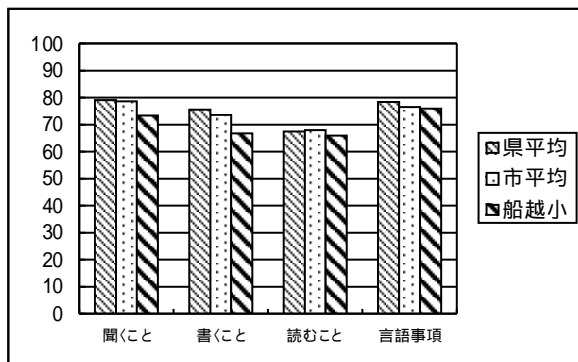
今後の指導の重点

「聞くこと」については、いろいろな場面で、話の要点を意識しながら聞くことやメモの取り方の指導をしていく。

「書くこと」については、自分の書きたい事をはっきりさせてから書くことや「はじめ・中・終わり」などの文章構成を意識して書くことを継続して指導していく。また、段落を意識して書く練習をしていく。

「読むこと」については、説明文の学習において、まず結論を確認し、段落の構成をおさえるようにする。さらに、自分で要点を見つけ、段落相互の関係を理解できるように指導していく。

「言語事項」については、帯タイムなどを利用して、4年生までの既習漢字やローマ字の復習をしたり、確認のテストを定期的に行ったりして定着を図りたい。



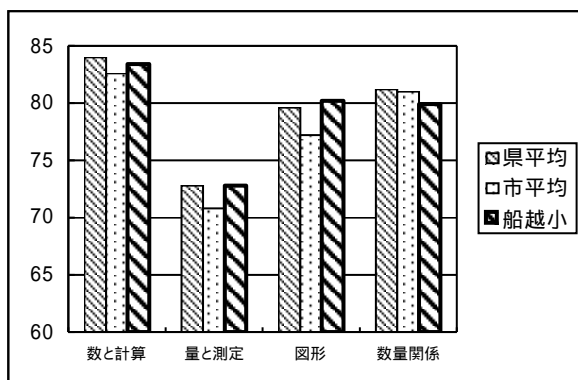
(3) 算数科

解答の状況

算数は、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4つの領域に分けて分析した。

「数と計算」は、県や市平均とほぼ同様の通過率であった。ただし、その中で、分数の意味を問う設問における誤答が37.1ポイントあった。

「量と測定」は県や市平均とほぼ同様の通過率であった。その中で、複合図形の面積を求める設問が、県や市平均よりも低い。また、かさや面積の適切な単位を選択する設問は県や市平均とほぼ同様の通過率ではあるが、62.9ポイントや52.8



ポイントという低い結果であった。

「図形」は県や市平均に比べ、通過率がわずかに高かった。その中で、正三角形の定義に関する設問は、県や市平均よりは高いが、69.7ポイントと少し低い通過率であった。

「数量関係」は県や市平均よりも約1ポイント通過率が低かった。その中で、伴って変わる2つの数量の関係を見つける設問は、県や市平均よりも約6ポイント低く、通過率も47.2ポイントと低かった。

今後の指導の重点

「数と計算」については、計算ドリルやプリントを使用し、これまでの学習を引き続き行う。特にわり算と繰り下がりの引き算については繰り返し指導し計算スピードをあげていきたい。

「量と測定」では、単位を身近なものにすることと、面積を任意単位のいくつ分と考えて比較することができるように指導していきたい。

「図形」では、図形の性質についての復習をしたり、具体物を利用して学習をしたりしていきたい。

「数量関係」では、()を用いて、一つの式にまとめて計算することができるようにする。伴って変わる2つの数量の関係を表に書いて、変化のきまりを見つけ出すことができるようにする。

算数科については、数量や図形の意味を実感的に理解できるように、具体物を用いた算数的活動を学習に取り入れるようにする。また、算数で身につけた知識や技能を、日常生活や他教科の学習に活用していくことができるように、数や式、図や表、グラフなどを用いた思考や表現の活動を設けていきたい。さらに、前学年の同じ領域の内容を学習に取り入れ、学び直しの機会を設けながら、学習の系統性を重視した授業作りに努める。

(4) 生活と学習に関する意識・実態について

全体的な様子として、近所の人や家の人にあいさつができる、学校や社会のルールを守っているなど、気持ちよく生活することができている児童が多い。また、将来の夢や目標を持ち、夢は叶うと思っている児童も多くいる。ただし、改善していかなければならない課題もいくつかあるので、以下に記す。

	改善したい点	今後の具体的な取り組みの内容
生活	<p>・地域や子ども会などの行事に参加していると答えた児童は約50%で県平均より18ポイント以上低い。</p> <p>・外にでて遊んだり、運動をしたりして体を動かしていますと答えた児童は80%を下まわっており、県平均より7ポイント近く低い。</p> <p>・自分には良いところがあると答えた児童は約66%で県平均より6ポイント以上低い。</p>	<p>公民館や地域の施設で行われている行事についてプリントが配られるので、その都度内容を紹介し、参加を促す。</p> <p>児童が外で遊ぶように声をかけ、全員遊びを定期的に行う。教師も参加できるときには参加するようにし、体を動かすことの楽しさを感じられるようにする。</p> <p>児童一人一人の生活の様子や学習の様子を見取り、具体的に評価できることをその都度評価していく。また、児童同士でお互いの良いところを評価しあう</p>

	場を設け、児童が自分の良さに気づけるようにする。
--	--------------------------

	改善したい点	今後の具体的な取り組みの内容
学 習	<p>(全般)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものごとを解決する時にたぶんこうではないかと予想しているという児童や、なぜそうなるのか、理由をつけて話していると答えた児童が県平均に比べて数値が低い。 <p>(国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読んだり、書いたりするときや、話したり聞いたりするとき、「だれが」「いつ」「どこで」「何を」「なぜそうしたか」「どのように」について注意していると答えた児童が約57%と県平均より7ポイント以上下回っている。 ・国語の授業がよくわかると答えた児童は78.7%と比較的多い中、国語の授業が好きと答えた児童は65.2%、楽しみにしていると答えた児童は53.9%となっている。 ・国語の授業では相手が自分に何を伝えたいのか話の中心を考えながら聞いていると答えた児童が57.3%と県平均より10ポイント以上下回っている。 <p>(算数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形を観察するとき、見た目だけでなく、辺の長さや角の大きさにも気をつけているという児童が県平均に比べて6ポイント下回っている。 ・算数の授業がよく分かると答えた児童が県平均より5ポイント以上下回っている。 	<p>授業の中で、予想する時間や考える時間を確保し、発表させるというサイクルを続けることで、児童に予想するというのを身につけさせる。また、発表の時には、なぜそう考えたのか理由を述べさせることで、理由をつけて話すことを習慣化する。</p> <p>授業の中で、「だれが」「いつ」「どこで」「何を」「なぜそうしたか」「どのように」の使い方を示す。</p> <p>授業中に具体物を示し、掲示物を工夫することで、児童の興味・関心を喚起する。また今なにを学習しているのかという目標を明確にし、できたという喜びを味わわせたい。</p> <p>授業の中で、話を聞くときの態度を指導し、気になるところや大切だと思ったことはメモをするように指導する。</p> <p>具体物を提示するだけでなく、実際に児童に触らせたり、どのようになっているのかをノートに書かせたりする時間をとる。</p> <p>児童の学力定着のため、理解度に応じた計算プリントや問題プリントを用意する。児童が自分で解くことのできる問題に取り組みさせることで、基礎的な学力を身につけさせ、苦手意識をなくしていく。</p>